

『総合人間学』（オンラインジャーナル） 投稿規程および執筆要領（2024年度版）

総合人間学会編集委員会

2024年9月18日

目次

投稿規程	2
1 投稿	2
1.1 投稿資格	2
1.2 投稿原稿	2
1.3 要旨、キーワード	3
1.4 文字数	3
1.5 投稿方法	3
2 査読	3
2.1 査読者の任務	3
2.2 査読評価基準	3
2.3 査読後の改稿	4
2.4 査読に関する守秘義務	4
執筆要領	4
1.1 書式	4
1.2 タイトル、氏名の記載	4
1.3 要旨およびキーワードの記載	5
1.4 ページ番号	5
1.5 構成	5
1.6 箇条書き（リスト表示）	5
1.7 引用	5
1.8 図表	6
1.8.1 図（写真）	6

1.8.2	表	6
1.8.3	その他	6
1.9	注	7
1.10	参考文献	7
1.11	自著からの引用等	7
1.12	著者情報	8
1.13	本文の表記	8
1.14	その他	8

本規程は学会誌『総合人間学』（オンラインジャーナル）への投稿の要領を定めるものである。

投稿に際しては、執筆要項を熟読し、各項目を厳守すること。執筆要領に従っていない原稿は受理できない場合がある。なお、各種委員会、大会、研究会などの報告もこの執筆要領に準じること。

投稿規程

1 投稿

1.1 投稿資格

1. 総合人間学会会員であること。
2. 投稿時点で投稿年度までの学会費を完納していること。
3. 大会等において過去に研究発表をしていること。あるいは、会員としてすでに2年間経過していることが望ましい。
4. すでに投稿論文が掲載された者でも、次年度も続けて投稿することができる。

1.2 投稿原稿

1. 本学会の趣旨に沿うものであること（学会設立趣意書を参照）。
2. 投稿は未公開の論文および研究ノートの二種類とする。
 - (a) 「論文」とは、独創性のある学術的な研究成果を展開したもの。
 - (b) 「研究ノート」とは、研究を発展・活性化させる知見、問題提起、展望、資料紹介

など。

- (c) 投稿は、大会等での研究発表を踏まえるなど、本学会の会員の関心を引くものであることが望ましい。
- (d) 総合人間学の学際的性格を鑑み、専門分野の異なる読者にも伝わるように、難解な専門用語は避け、必要に応じて説明を加えること。

1.3 要旨、キーワード

投稿原稿と報告等には、400 字程度の日本語要旨と 5 個程度の日本語キーワードをつける。ただし、掲載が決定した場合には、日本語要旨の英訳とおよび英語キーワードの提出が求められる。

1.4 文字数

文字数は論文、研究ノートは日本語要旨を除いて 20,000 字以内（注・参考文献を含む）とする。ただし図表は、執筆者の判断で 1 点につき 400 ～1,200 字（1 頁）の範囲でおよその領域を確保して字数にカウントする。文字数制限を超える場合は不受理とする。また改稿原稿も文字数制限以内に収めること。

1.5 投稿方法

1. 原稿は指定された期日までに、下記の編集事務局宛に電子メールにて送付する。期日までに届かなかった場合は不受理とする。
2. 執筆要領に従い、学会サイトにある投稿用テンプレートを利用して投稿する。

2 査読

投稿論文は査読に付される。投稿論文の査読者は本学会員のなかから専門領域を踏まえ、編集委員会が 2 名を選定し、査読を依頼する。研究ノートは編集委員会にて閲読する。報告については、報告を行う各委員会がその責任をもつ。

2.1 査読者の任務

査読者は所定の日までに、対象の論文について評価し、規定の査読報告書を作成し、編集委員会に提出しなければならない。

2.2 査読評価基準

A: このままで掲載可能である。

- B: 若干の手直しがあれば、掲載可能である。
- C: 大幅な手直しがあれば、再査読の上、掲載の可否を判断する。
- D: 掲載は不可能である。

2.3 査読後の改稿

査読の結果、改稿を求められた場合、改稿の期限は編集委員会の指示に従うこと。期限までに提出がなかったものは投稿を辞退したものと判断される。最終的な掲載の可否は編集委員会の審査・決定を経て運営委員会にて承認する。

2.4 査読に関する守秘義務

査読判定に関わった査読者および編集委員会委員は守秘義務を負う。

執筆要領

1.1 書式

原稿の執筆には原則として Microsoft Word を用い、以下の設定に合わせることをとする。(Microsoft Word が使用できない場合は汎用的なテキスト形式でも可とする。)

- 用紙：A4 横書き
- 文字数と行数：40 文字 ×30 行
- フォント：英数字以外は MS 明朝、英数字は Century(10.5 ポイント、ない場合は類似のフォントで 10~11 ポイント)

ただし、この書式指定は査読の公平性を期し、執筆における統一を図るためのものであり、組版時のレイアウトとは異なる。掲載時は仕上がり 20 ページ以内が目安である。

1.2 タイトル、氏名の記載

1 ページ目 1 行目にタイトルを、またサブタイトルがある場合は改行してサブタイトルを記す。タイトル、サブタイトルは中央揃えにして、12 ポイント、太字にする。次に英文タイトルを記す。タイトルの次の行に氏名を記す。氏名は右寄せにして、本文と同じ 10.5 ポイントにする。氏名の英語表記を記す。

1.3 要旨およびキーワードの記載

氏名の下に1行空けて、要旨、その下にキーワード、その後2行空けて、本文を開始する。英文アブストラクトは本文最後に、Abstract: として記載。最後に英訳の Keywords: を記す。Abstract がない場合は Keywords のみ記す（これら英語部分は制限文字数外とする）。

1.4 ページ番号

ページの下に、「ページ数/総ページ数」の形式でページ番号を記す。

1.5 構成

章番号と節番号には半角数字を用いる。(例:1. 2. , 1.1 1.2, 1-1. 1-2. など)

丸数字(①、②...)等の機種依存の文字、ローマ数字(I, II..., i, ii, iii, iv...), ひらがな、カタカナは使用しない。

1.6 箇条書き(リスト表示)

- 記号付き箇条書きは、原則として黒丸を用いる。
- 番号付き箇条書きは、アラビア数字とアルファベット、およびそれと両カッコ()の組み合わせで表示する。ローマ数字とカタカナ、および片カッコは使用しない。
- 見出し付き箇条書きは、[見出し]... のように表示する。
- 本文中で箇条書きの項目を参照する場合には、紛れが生じないように記号・番号などと参照の仕方に注意する。

1.7 引用

- 本文中での短い引用は、引用文の後に出典を(著者名 発行年: ページ)のように記す。
(例)

...本文...「...引用文...」(ランシエール 2005:24)

- 長文の引用は、引用の前後を一行空け、左を2文字インデント、右詰めて記述する。
(例)

『我輩は猫である』は夏目漱石の長編小説にして処女小説である。1905年(明治38年)1月、『ホトトギス』にて発表された。その書き出しはこうである。

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかほとんど見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番憚悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

1.8 図表

1.8.1 図 (写真)

- 小さな単独の図 (写真) はテキスト幅の半分以下に縮小して本文回り込みで表示する。
- 複数の図 (写真) を並べる場合には拡大縮小し、横並びの場合は図 (写真) の高さを、縦並びの場合は幅を揃えて整列させる。
- 図には 1、2、3.....のように通し番号とキャプションを図の下部につける。
- 図内の注は図の下部につける。

1.8.2 表

- ワードの作表機能を用いるか、エクセルで作成して原稿に貼り込む。
- 表を画像に変換して貼り込まない。
- 列数や列内の文字が多い表は、全体のフォントサイズを小さくしたりセル内で折り返したりして、テキスト幅に収める。
- 表には 1、2、3.....のように通し番号とキャプションを表の上部につける。
- 表内の注は図の下部につける。

1.8.3 その他

- 本文内での図表の参照は通し番号を用いる。(「次の図」「下の表」などの相対指定ではなく、「図 1」「表 2」などのように絶対指定する。)
- 図表は、必要に応じて編集委員会側でトレース、再作成されることがある。
- 組版に際して図表は原則としてページの天地に配置する。そのため、図表の大きさ、章・節のタイトル、改ページと関係して、原稿通りの位置にはならないことがある。
- 掲載が決定した場合、本文中に記載した図表等は、オリジナルデータ (jpg、png 等) も別途提出する。原則として投稿時の電子媒体にて送付することとする。ただし、電子データの総容量が 5MB を超える場合は、電子メールではなく CD-ROM または USB

メモリ等にデータをコピーした上で郵送すること。

1.9 注

- 後注として、本文内では上付き文字で⁽¹⁾、⁽²⁾、⁽³⁾と注を示し、本文の後に一行空けて【注】と太字で記した上で、次の行から(1)、(2)、(3).....の形式で表記する。
- ワードを使用する場合は、脚注機能の後注（文末脚注）を用いてもよい。（ワードの脚注機能では注番号の操作は面倒なため、カッコなしの数字のままでもよい。組版時、注番号は上記のように処理される。）

1.10 参考文献

- 参考文献は、文末脚注の後に一行空けて【参考文献】と太字で記した上で、次の行から記載する。
- 記載は和文献、外国文献の順とし、またそれぞれ執筆者のアイウエオ順、アルファベット順に並べる。
- 欧文書籍のタイトルはイタリック体とする。
- URLの情報は、記事のURL(閲覧日)のように記述する。URLの転記には誤りのないように十分に注意する。また、深いディレクトリに置かれている記事や二バイト文字をエンコードした長いURLは字数制限やレイアウトにも影響するので十分に注意する。URLの短縮形を用いてもよい。

(例)

マクルーハン, H.M. J (1986) 『ゲーテンベルクの銀河系—活字人間の形成』 森常治訳、みすず書房
総合人間学会趣旨 新版 (2019) http://synthetic-anthropology.org/?page_id=1932
(2024.08.08 閲覧)
McLuhan, H.M. (1962) *The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man*, Routledge & Kegan Paul

1.11 自著からの引用等

査読の妨げにならないよう、執筆者表記の他は本文中に氏名、所属等、執筆者を同定できる情報を記載しない。また、自著を引用する場合にはその他の文献と同様に表記し、「拙著」等の表現は用いない。

1.12 著者情報

論文末尾に著者名のかな表記、所属、専門分野、e-mail アドレスを入れる

(例) [きたざと たろう/津田大学/哲学/ sogo@gmail.com]

1.13 本文の表記

1. 文章は「である」調とし、分かりやすい表現にする。
2. 和文における句読点は「、」「。」を用いる。
3. 常用漢字、現代かなづかいとする。
4. 特殊文字の部分 (ウムラウト、アクセント、ルビ、圏点、ハングル、簡体字、繁体字など) はマーカーで印をつける。
5. 日本語の強調は (傍点ではなく) 圏点を用いる。
6. ルビは、水戸^{みと}光圀^{みつくに} (みとみつくに) などのように、読みを括弧に入れて後置する。(読みは文字数には含めず、組版時に削除される。)。
 - ルビの文字配置 (左詰め、中央、右詰め、均等など) に注意する。
 - ただし、ルビの組版は個別の作業になるので、ルビは必要最小限度にとどめる。
7. 全角文字、半角文字を適切に区別する。
 - 番号 (ナンバリング) や年号は半角数字が望ましい (平仮名で番号や年号をタイプして変換すると全角になる場合があることに注意)。
 - 本文中では不用意に全角スペース (全角アキ) は使用しない。
 - 段落頭の一文字下げと改行は全角スペースではなく、それぞれタブキーによるインデントとリターンキー (エンターキー) を用いる。
 - 全角スペースは不可視の一文字として扱われるため、不用意に使うと編集作業で思わぬミスが発生する可能性がある。
8. 年号は原則として西暦年に統一し、半角数字で表記する (数字の後に「年」を追加する必要はない)。ただし、特に必要がある場合は、それ以外の年号の併記も可とする。
9. 数値に関しては半角数字 (1、2、3……) で表記する。ただし、「第一、第二、第三……」、また「一つ、二つ、三つ……」等については漢数字を用いること。
10. 専門分野の異なる読者にも伝わるよう難解な専門用語は避け、また必要に応じて説明を加える。
11. 当該分野でのみ通じる略号は使用しない。

1.14 その他

1. 上記の執筆要項に従っていない原稿は受理できない場合がある。

2. 提出された原稿は、その表記に関してのみ、編集事務局にて修正を加える場合がある。
3. 掲載された原稿の著作権は、掲載された時点から本学会に帰属する。執筆者本人を除き、本学会の許可なくして複製することを禁ずる。J-Stage に掲載された記事の利用は J-Stage の利用規程に従うものとする。
4. 投稿にあたっては、投稿論文の内容が「二重投稿」に該当しないことを必ず確認するとともに、倫理面に十分配慮する。
5. 査読結果に対する異議申し立ては、編集委員会にて審議する。
6. 掲載決定後、研究者番号（e-Rad、ORCID など）をわかる範囲で提出する。

本規定は、2017年6月10日より実施する。(2022年7月、2023年7月、2024年9月改定) なお、投稿にあたっては、必ず本学会サイトにて最新の情報を確認すること。

投稿ならびに連絡先

総合人間学会編集委員会

編集事務局メールアドレス: editor@synthetic-anthropology.org (編集幹事)

郵送ご希望の場合はお問い合わせください。